

TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

2023.12
Vol. 8

飯田文化会館 ニュースレター

TAKE FREE

第9回 飯田市新文化会館整備検討委員会

基本構想(素案)の提示 — これまでを振り返る —

新しい文化会館の基本理念

みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば





11/6 Mon

第9回 飯田市新文化会館整備検討委員会

基本構想(素案)の提示 — これまでを振り返る —

飯田市新文化会館整備検討委員会は、令和4年6月の発足から1年半ほど、「飯田の文化とは何か」「飯田らしさとは」という部分を焦点に、基本理念・基本構想を作り上げてきました。いよいよ、その最終段階に入った今回の委員会では、同時に進められていた適地調査評価の報告と、今までの委員会を振り返りながら基本構想の素案を検討。

「文化=遊びであり楽しむことを、伝えられないか」「文化会館は、飯田のまちづくりの中でどんな位置づけになるのか」「今までは舞台芸術に特化し意志のある人たちにフォーカスしていたが、これからは日常的にいろいろな人が顔を出せる場所になってほしい」など、さまざまな視点から検証された意見が交わされました。



1

令和4年6月 第1回 整備検討委員会

飯田の文化とは何か

- 人との関係をつくる
- 地域の人たちが学ぶ場所
- 市民とプロと行政のコラボレーション
- 人が集まり創り出す
- 文化を主體的に受容し暮らしと融合する

2

令和4年7月 第2回 整備検討委員会

飯田文化会館が果たす役割とは

- 市民の誇りと自信につながる場
- 気楽に立ち寄れる場
- 子どもたちが世代を越えて出会い、好きになる
- 伝統と新しい文化をつなげ、市民の日常に寄せた機能
- 都市圏に行かなくても、様々な文化に触れることができる

3

令和4年9月

飯田の文化をとらえよう

テーマ こんな文化を
飯田の文化

「どんなものになればいいか」という普段の生活の中

つくるのではなく
できていく過程を大切に



6

令和5年2月 第5回 整備検討委員会

新しい文化会館の基本構想(活動内容の検討)

飯田らしい「公立劇場の役割」を考えると・・・

ひとを育み まちを育み 活力を生み出す

人を元気に・まちの活力・波及効果

5

令和4年11月

基調講演

講師 公立劇場

パネルディスカッション

- 地域性と広域性
 - “飯田”や“ひと”のためにやるべきこと
 - 首都圏や中京圏との連携
 - 一つの戦略として
- 地域の舞台芸術
創造活動のあり方

7

令和5年5月 第6回 整備検討委員会

飯田らしい表現活動とは

- 飯田は、外からの文化を自分たちのものにしていく精神性があるまち
- 「人」が育つことは、「まち」が育つことへとつながる
- 役割を重視した活動：地域とホールとの連携
- 大ホールの活用：鑑賞事業を重視した活動

飯田らしさ 1

外からの文化を吸収し、独自に展開してきた背景

飯田らしさ 2

市民主体の文化活動

飯田らしさ 3

専門家とのつながり



8

令和5年7月 第7回 整備検討委員会

基本理念・活動を実現する機能、空間とは

- 日常と結びついた機能性や空間性・・・半屋外(公園・広場)、屋外的な空間
- 創作活動が起こるような空間性・・・工房、ものづくり工房

「非日常的なホール」と「使い勝手のいいホール」のバランス





市民ワークショップ

に考える「BUNKAミーティング」

文化会館なら行ってみたい!

文化芸術で、やりたいこと・活動

暮らしの中に存在できるか?

中での関わり方にも言及



4



「ひろば」は
自然と人が集う場でもあり
感動を共有する場にもなる

令和4年9月 第3回 整備検討委員会

基本理念を仮設定 「みんなが集い、創り、伝える 感動の飯田ひろば」

- 「みんな」という言葉は「色々な思いや考え方をを持った人たち」という意味で表現できると、より馴染むのではないかと
- 様々な「文化芸術」に触れたり創造発信ができる場である一方、いろいろな人が気軽にそれぞれの時間を過ごすことができるイメージも必要だと思う

令和4年9月 第4回 整備検討委員会 (学習会)

全国事例から見えてくる新しい時代の地域の公共劇場の姿

公益社団法人 全国公立文化施設協会 アドバイザー くさかとしや
劇場計画コンサルタント/空間創造研究所 取締役/岡山芸術創造劇場長 **草加叔也 氏**

アクション リニア時代の飯田にふさわしい「新飯田文化会館のあり方」

多機能性、専門性と多機能性、この2つの軸の中で重心をどこに置くとよいか考えることが重要

「ひろば」といった言葉が何を伝えようとしているのか
考えるべきこと、機能は何かをしっかりと考える必要がある

飯田の文化圏をうまく使っていくための手段として、時間軸を使っていくことが
重要になるのでは

飯田の振興に有効・有益な人材の活用や

方法を考える、リニア時代への新たな視座を提示

「まち、賑わい、人をつくる」
といった役割を
劇場にどう持たせるか



令和5年9月 第8回 整備検討委員会

飯田らしい施設と事業

基本理念を実現させるために
必要な、具体的なコトは?

コト想定される
(事業)

集う

- 誰が、どう集う?
- どんな交流?

観る

- 誰が、何を観る?
- どんな鑑賞?

創る

- 誰が、何を創る?
- どうやって創る?
- どんな創造?

伝える

- 誰が、誰に、何をどうやって伝える?
- どんな継承、発信普及?

育む

- 誰が(誰を)どうやって育成する?
- どんな育成?

TOWARD
THE NEXT STAGE

施設機能

1 鑑賞機能
ホール(メイン・サブ)

2 創造支援機能
スタジオ、リハーサル室、工作室

3 交流促進機能
オープンスペース、ホワイエ、広場

4 管理運営機能
事務室、機械室

9

な空間

学識委員からのコメント

舞台芸術活動が 「地域づくりの拠点」へ



竹田市総合文化ホール
グランツたけた(大分県)
チーフプロデューサー

元 上田市交流文化芸術センター
(サントミュージゼ)プロデューサー

おざわ ろうじく

小澤 櫻作 学識委員

舞台芸術以外にも 幅広い人たちが集える場所へ



元 名古屋フィルハーモニー交響楽団
演奏事業部長

やまもと ひろし

山元 浩 学識委員

舞台芸術活動を中心に 優先順位をつけ柔軟に



明治大学教授

ささき ひろゆき

佐々木 宏幸 学識委員

今までの自身の経験からすると、多くの自治体ではまだ見ぬ未来を描き作っていかうと、基本理念～実施計画を作っていくが、飯田市は今までの実績があり、視座・土台が高いところからスタートしている。まだ見えない部分も多く整理が必要だが、そこから見えてきた部分が次のアイデアに繋がってくるのでは。

また、近年の公共ホールは「地域づくりの拠点」として地域課題に向き合う視点が求められる傾向がある。課題は地域や時代によって変化するので具体的には示し難いが、例えばアーティストインレジデンスやワークショップなどをキーワードとして、地域の課題解決に向けて地域・市民と連携する、という表現が素案にあると良い。

次のステージとなる基本計画・実施計画では、地域で何が必要かを考え、取捨選択していけたら良い。次のステージにバトンタッチという意味で、今までの議論をより具体的にしていくのか、さらに広げていくのかを考えながら進めていけたらと思う。

今後市民が期待する部分はまちづくりに大きく関連してくる。「新しい劇場＝まちのランドマーク的な場所」になってくることが予想されるが、最初の盛り上がりはどう維持していけるか、また、どういう形で利用され生かしていけるかを、もう少し印象強く表現できていけばなお良いと感じる。

この地域は劇場に携わる人が多いが、舞台芸術以外での利用の仕方、例えば部活動での活用など、これまでのホールにはなかった使い方を模索し実行できると、より幅広い人たちが集える場所になるのでは。コロナを機に起きたさまざまな変化は、これからの劇場の使い方にも大きく関係してくる。これらは今後のまちづくりに繋がってくると感じる。

少しずつ新しいホールが見え始めた段階。基本構想を見た多くの市民の皆さんに「こんな場所ができるんだ」とわかりやすく伝われば良い。一人でも多くの人がいちいちいろいろな形で関わり、「このホールに来てよかった」と思える新文化会館になることを期待する。

今回、今まで議論した多くの情報を丁寧に整理して、枠組みを整えてできた状況だと理解した。これがただ「基本構想としてまとめれば良い」だけでなく、どんなメッセージを送れるかを考えながら進めていけば、ポイントが明確でシャープな基本構想になっていくと感じた。これをベースにブラッシュアップしていくことを考えれば、きっと素晴らしいものができていく。

また、今回報告された適地調査の中でも発展性、波及効果、利便性、社会環境について検討されてきた。次は実現性を考える段階。今後、諦めたり考えを変えなければいけないなど、取捨選択をする状況も生じてくる。そうすると、基本構想の次は優先順位を明確にしていくことが重要になってくる。「これだけは譲れない」ということを明解にし、スポットライトを当てながら、基本構想に列記されているものに優先順位をつけ、よりシャープにしつつ、柔軟な計画にすることがポイントになってくると感じる。

新飯田文化会館「感動の飯田ひろば」「伝える」アイデア出し意見交換会を開催

10月17日と31日の2回にわたって、飯田市を拠点に活動するデザイナーやカメラマンなど広報に携わる皆さんとの意見交換会を合同会社伊那谷サラウンドと共に開催し、延べ14名の方にご参加いただきました。

基本理念「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」を体現し、効果的な「伝える」方法を探ることを目的に、文化活動の発表・発信、伝統芸能・文化活動の継承、積極的な情報発信をどう展開するか、文化会館や文化活動に関心のない方に対してどう接触し楽しさを伝えられるか等について意見を交わしました。

「現状ある施設の役割を振り返ることも大切」「集客できている施設のやり方を検証する」「文化会館に来たくても来ることができない課題を排除する対応をし、多様性を認め合う地域性を育むことが大事」などさまざまな視点から意見が出されました。

